

弱さの人間学

今出川

通年・水曜3講時(13:10~14:40)

韓国メソジスト教団派遣宣教師・立命館大学非常勤講師

パク
朴 シネ

私たちは弱肉強食の社会の中で生き残るために、必死に自分の弱さを押し込み、ひたすら強くあろうと努力しつづけています。しかし、弱さは強さの対極にある克服すべき単なる「強さの欠如」というよりも、むしろ死を運命付けられている存在としての人間すべてに通じる普遍性であります。このような認識からこの講座では、自分の弱さを欠如としてとらえるのではなく、それをまず普通と考え、そういう「弱さ」の方から自分のあり方を再考します。

<春学期>「弱さを生きる」

自分の弱さを全て否定するのではなく、「弱さを生きる」ことの意味や価値を様々な角度から問い、その中に光を見出していきます。

<秋学期>「死を生きる」

死と関わる様々なテーマを取り上げて、死への存在としての「わたし」をいかに生きるかを共に考えます。

■募集人数

20名

■テキストなど

必要に応じて適宜紹介する。

■必要な費用

特になし

■注意事項

この講座は通年で開講されますが、春学期のみ、または秋学期のみの受講も可能です。受講者の人数、経験などによって、授業の内容や順序は変わることがあります。



回	講座内容(受講者の人数、経験などによって、授業の内容や順序は変わることがあります。)
1	弱さと向き合う旅へのご招待
2	成就されなかった変身と上昇:あるがままの私を生きる -映画『シュレック』(2001)を手掛かりとして-
3	「悲しみ、あなたが必要なの」 -映画『インサイド・ヘッド』(2015)を手掛かりとして-
4	いつもと変わらぬ日々を、愛おしく生きる -映画『パターンソン』(2016)、『PERFECT DAYS』(2023)を手掛かりとして-
5	暴力的な世界と向き合う弱者の連帯 -映画『シェイプ・オブ・ウォーター』(2017)を手掛かりとして-
6	「生きていくのにあんまり楽な土地じゃないからなあ…助け合っていかにゃあ…」 -映画『おおかみこどもの雨と雪』(2012)を手掛かりとして-
7	本当の家族とは何か「そして我々は家族になる」 -映画『ローマ』(2018)、『そして父になる』(2013)を手掛かりとして-
8	「古い」を生きる、その光と影 -映画『シーモアさんと、大人のための人生入門』(2016)、『ファーザー』(2021)を手掛かりとして-
9	私の人生の編集者として、私の人生をどう物語るか -映画『フェイブルマンス』(2022)を手掛かりとして-
10	弱さを生きる -総括的議論と今後の展望-

秋学期「死を生きる」	11	生と死について考える旅へのご招待
	12	死のない人生は幸せなのか －映画『エバーラスティング 時をさまようタック』(2002)を手掛かりとして－
	13	人間なら誰もがこの世を去るという当たり前の真実について －映画『ギレルモ・デル・トロのピノッキオ』(2022)を手掛かりとして－
	14	私の人生の結末が分かったら、今をどう生きるか －映画『メッセージ』(2016)を手掛かりとして－
	15	「未来は決まっていますか？それとも変えられますか？」 －映画『Disney's クリスマス・キャロル』(2009)を手掛かりとして－
	16	「食べる」から「生きる」へ －映画『桜桃の味』(1997)を手掛かりとして－
	17	和解・治癒・回復、そして祝福のメッセージとしての食事 －映画『ババットの晩餐会』(1987)を手掛かりとして－
	18	喪失を生きる「生きていきましょう。長い長い日々を、長い夜を生き抜きましょう」 －映画『ドライブ・マイ・カー』(2021)を手掛かりとして－
	19	「死」を生きる －映画『生きる』(1952)、『生きる LIVING』(2022)を手掛かりとして－
	20	死を生きる －総括的議論と今後の展望－